

川崎市民劇「大いなる家族」 作家・小川信夫氏との出会い・・・

東日本大震災復興祈願 第4回川崎郷土・市民劇

小川信夫作
杉本孝司演出

大いなる家族

—戦後川崎ものがたり—

川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)2013

人のぬくもり、支えあい

復興に立ち上がる人々を描く創作劇

プロイター製図家
絵：田島昭文

2011年夏佐久川昌子沖縄舞踊研究所発表会のお手伝いをしてい
た折、当時の川崎沖縄県人会会長を経て小川氏との御縁がはじまり
ました。

45年川崎市に暮らしながら知らないことはたくさんあります・・・市民
劇の存在、戦中戦後の川崎の様子・・・学童疎開、川崎空襲、本当
に知らないことばかりでした。

焼きつくされ町も心も荒廃し憔悴しましたが、復興を求め支えあい補
いあいながら、起ちあがってきた人々の情景を描いたこの作品の台
本を読ませていただいたことと、小川氏の「伝えたい」という熱意、そ
して沖縄芸能に関する造詣の深さを感じ、できるお手伝いはさせて
いただこうと、超微力ですが実行委員の一員として動いています。

川崎と沖縄の絆

はるか海を隔てた南の島、沖縄。

川崎市で沖縄伝統芸能文化が生まれ受け継がれてきた由来は大正の初期に遡るといわれています。

大正時代、現在の川崎区に紡績工場が設立され全国各地から女子工員が募集され、その中でもっとも多かったの
は沖縄の少女たちだったそうです。その影響で親類縁者も移住するようになり、沖縄の生活に密着している沖縄芸
能もたびたび上演されるようになりました。

1950年には「川崎沖縄芸能研究会」が発足し、1952年川崎市無形民俗文化財として指定されました。1954年
には神奈川県無形民俗文化財にも指定され、親元を離れたこの土地で大切に育てられています。

その後、芸能文化だけにとどまらず川崎と沖縄は深い絆で結ばれています。

JR川崎駅前の石敢當。1966年沖縄は数次の台風の影響を受け、なかでも宮古島は蘇鉄地獄といわれるほど悲惨
な状況だったそうです。このとき川崎市は全市民的救援活動を展開し、それに対する返礼として宮古島から贈られた
名石トラパーチンだそうです。

数々の歴史を経、川崎市と那覇市は1996年5月20日友好都市を締結し更に親交を深めています。

「大いなる家族」 チケット販売開始しました!!! 2500円

多摩市民館 5月2日(金) 夜

5月3日(土) 昼

5月4日(日) 昼

川崎市教育文化会館 5月24日(金) 夜

5月25日(土) 昼

5月26日(日) 昼

貧困・家族の崩壊・絶望、人々はひたすら夢を追い、人間同士の絆を求めて立ち上っていく(チラシより抜
粋)・・・東日本大震災復興を祈願するこの作品は、きっと観た人に勇気と元気を感じさせると思います。

チケット購入希望の方は、shinya-m@h4.dion.ne.jp までご連絡ください。